

## 2014年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期見通し

2013年11月8日  
オリンパス株式会社  
取締役専務執行役員  
グループ経営統括室長  
竹内 康雄

- 財務担当の竹内です。
- それでは私から、第2四半期の連結決算数値の概況をご説明申し上げます。

---

## **(1) 2014年3月期第2四半期連結業績 およびセグメント別概況**

- まず、連結業績についてご説明いたします。

## 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ①連結業績概況

(単位:億円)	2013年3月期 2Q累計(4-9月)	2014年3月期 2Q累計(4-9月)	増減額	前年 同期比	2013年3月期 2Q(7-9月)	2014年3月期 2Q(7-9月)	前年 同期比
売上高	4,058	3,338	△ 719	△ 18%	2,162	1,746	△ 19%
販管費 (販管费率)	1,694 (41.8%)	1,764 (52.9%)	+ 70 (+ 11.1pt)	+ 4%	849 (39.2%)	904 (51.8%)	+ 7%
営業利益 (営業利益率)	180 (4.4%)	285 (8.5%)	+ 105 (+ 4.1pt)	+ 58%	159 (7.4%)	203 (11.6%)	+ 28%
経常利益 (経常利益率)	74 (1.8%)	170 (5.1%)	+ 96 (+ 3.3pt)	+ 129%	76 (3.5%)	146 (8.3%)	+ 91%
四半期純利益 (純利益率)	80 (2.0%)	△ 79 (-)	△ 160 (-)	-	125 (5.8%)	△ 61 (-)	-
<b>&lt;為替レート・影響額&gt;</b>							
円/US\$	79円	99円	19円(円安)				
円/Euro	101円	130円	29円(円安)				
売上高への影響額	-	+ 514億円					
営業利益への影響額	-	+ 102億円					

### 上半期のポイント

- ✓ 好調な医療事業が上半期として過去最高水準の売上高、営業利益を計上し、全社業績を大きく牽引
- ✓ 特別損失の計上: 訴訟損失引当金 170億円

- 連結売上高です。医療事業を中心に主要事業は増収となりましたが、情報通信事業を昨年9月に譲渡したことを主な要因として、売上高全体では前年同期比18%減の3,338億円となりました。
- 営業利益は、引き続き新製品が好調な医療事業が全社業績を牽引し、前年同期比58%増の285億円と大幅な増益という結果でした。
- 当期純利益については、訴訟の進行状況を鑑み、主として訴額合計約440億円である3件の訴訟について、引当金170億円を特別損失に計上したことから、79億円の純損失となりました。
- 7-9月の3ヶ月をみても、営業利益、経常利益は同様に大幅な増益となっております。
- なお、この上半期の為替レートは、ドルが前年同期比19円 円安の99円、ユーロは同29円 円安の130円でした。

## 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ②セグメント別業績

(単位:億円)		2013年3月期 2Q累計(4-9月)	2014年3月期 2Q累計(4-9月)	増減額	前年 同期比
医療	売上高	1,762	2,298	+ 536	+ 30%
	営業利益	374	492	+ 119	+ 32%
ライフ・産業	売上高	381	440	+ 59	+ 15%
	営業利益	11	5	△ 5	△ 50%
映像	売上高	559	470	△ 89	△ 16%
	営業利益	△ 44	△ 27	+ 17	-
情報通信	売上高	1,142	-	△ 1,142	-
	営業利益	17	-	△ 17	-
その他	売上高	213	130	△ 83	△ 39%
	営業利益	△ 36	△ 28	+ 8	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△ 141	△ 157	△ 17	-
連結合計	売上高	4,058	3,338	△ 719	△ 18%
	営業利益	180	285	+ 105	+ 58%

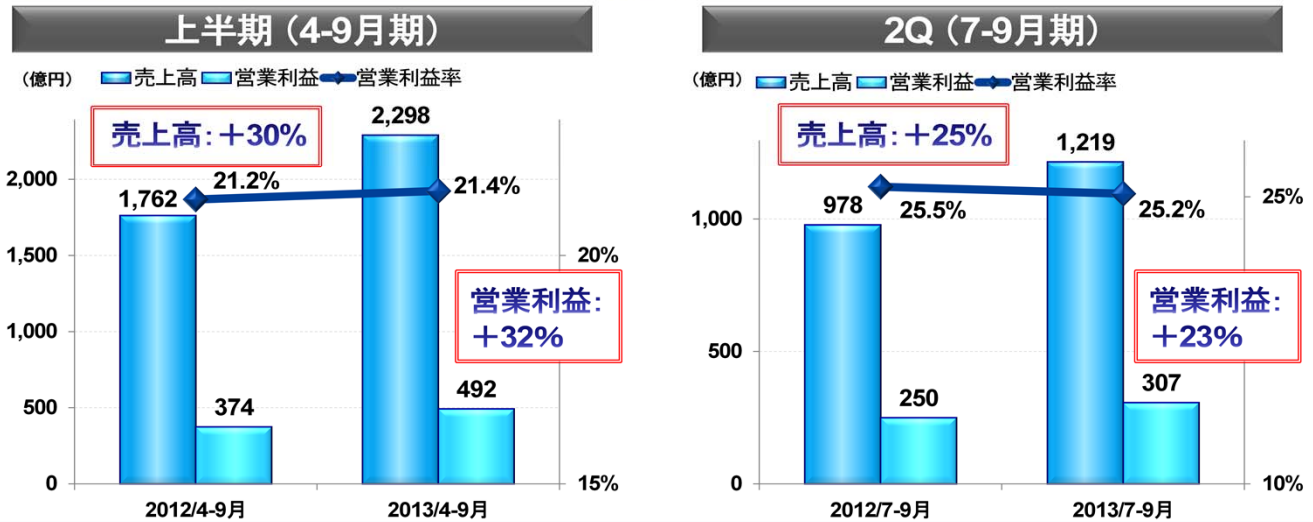
Copyright Olympus Corporation

4

- 続いて、セグメント別の状況です。
- ご覧の通り、医療事業が引き続き大変好調に推移し、売上高は、前年同期比30%、営業利益は同32%と大幅な増収、増益となりました。
- 医療以外の事業につきましては、ライフ・産業事業で増収となったほか、再建中の映像事業も営業損失の改善を図るなど、中期ビジョン及び、構造改革の取組みの効果が徐々に表れつつあるとみています。
- 主力の3事業について、上半期と7-9月期の状況を、もう少しご説明します。

## 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ③医療事業

- ◆ 新製品が好調に推移し、上半期として過去最高水準の売上高、営業利益を計上
- ◆ 中期ビジョン達成に向け、戦略的な投資を加速したが、収益性の高い内視鏡分野の増収が寄与し、引き続き高い利益率を維持



Copyright Olympus Corporation

5

- まず、医療事業です。
- 上半期の売上高は、前年同期比30%増の2,298億円、営業利益は32%増の492億円と、上半期として過去最高水準の売上高、営業利益を計上し、大変好調な結果となりました。
- 7-9月期で見ましても、売上高は25%増収、営業利益は23%増益と、同様に好調な結果です。
- 昨年、欧米、日本に投入した消化器内視鏡の新製品が引き続き好調に推移し、内視鏡分野の売上高が前年同期比34%増となったことが大きく寄与しています。
- 加えて、外科・処置具分野においても、国内外で昨年投入した外科内視鏡新製品の拡販によって、売上高は前年同期比26%増となり、消化器内視鏡と共に医療事業全体の高い業績を支えています。
- なお、この上半期はこうした好調な業績もあり、中期ビジョン、さらにはその先の成長加速に向けた投資を積極化しています。このような先行投資も吸収しつつ、医療事業は引き続き高い収益性を維持しております。

## 2014年3月期 第2四半期実績(対前年同期比) ④ライフ・産業事業

- ◆回復基調にある国内需要動向と新製品の販売効果により増収
- ◆今後の販売拡大に向けた販促投資等により、営業利益は減少

### 上半期 (4-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率



### 2Q (7-9月期)

(億円) ■売上高 ■営業利益 ◆営業利益率



Copyright Olympus Corporation

6

- ライフ・産業事業です。
- 上半期の売上高は、前年同期比15%増の440億円、営業利益は5億円となりました。
- ライフ・産業事業は、欧州、中国のマクロ環境の影響を大きく受けていますが、回復基調にある日本の需要動向を受け、研究機関等での予算執行が徐々に活性化する中、昨年投入した新製品が増収に寄与しています。
- 一方で、今後の新製品販売強化の方針から販促費用等を増加させ、上半期6カ月間では営業利益の改善に至りませんでした。しかし、7-9月の3カ月間をみると前年同水準の営業利益を確保しており、収益は徐々に改善傾向にあります。



## 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ⑤映像事業

- ◆コンパクト、およびミラーレスの販売台数減少により売上減
- ◆コスト削減を進め営業損益は改善するも、売上高の減少及び、為替(円安)による費用増加により、営業損失を計上

上半期 (4-9月期)



2Q (7-9月期)



Copyright Olympus Corporation

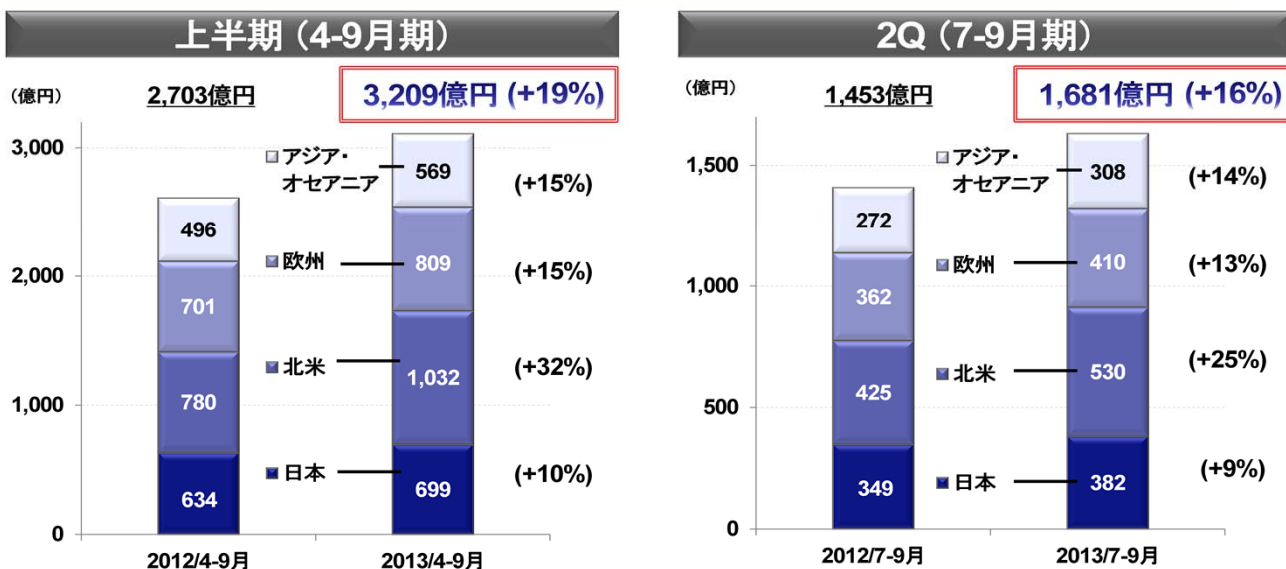
7

- 映像事業です。
- 売上高は、前年同期比 89 億円減収の 470 億円、営業利益は、前年同期比 17 億円改善し、27 億円の損失となりました。
- 依然として、コンパクトカメラ市場の急激な縮小や、円安によるコスト押し上げ要因など、厳しい事業環境が続く中、中期ビジョンで掲げた事業再建施策は着実に実行しました。結果として、これまで拡大傾向にあった営業損失にも一定の改善が表れつつありますが、売上の減少をカバーするには至りませんでした。
- なお、この上半期のコンパクトの販売台数は、前年同期比 41%減の 159 万台、ミラーレス一眼の販売台数は、同 16%減の 25 万台という結果でした。

## 2014年3月期 第2四半期実績(前年同期比) ⑥仕向地別売上高(主要3事業)

### ◆ 好調な医療事業が大きく牽引し、全地域で増収

(医療事業の4-9月期成長率: 国内+21%、北米+42%、欧州+25%、アジア・オセアニア+30%)



Copyright Olympus Corporation

(\*) グラフは主要3事業(医療、ライフ・産業、映像)の数値

8

- 地域別の売上高はこちらの通りです。
- 欧州、中国の一部でマクロ環境が不透明な状況はありましたが、好調な医療事業が全体を大きく牽引したことに加え、円安の効果もあり、全地域で大幅な増収となりました。
- 地域的には、医療事業が好調であった北米の売上増が大きく貢献しています。
- ご参考までに医療事業を補足しますと、4-9月期の成長率は、国内21%増、北米42%増、欧州25%増、アジア・オセアニア30%増と、全体の大きなドライバーとなっています。



## 2014年3月期 第2四半期実績(期初見通し比) ⑦営業増益の要因

- ✓ **医療事業(+32億円)**  
利益率の高い新製品が好調に推移したことや、為替によるプラス効果もあり、計画上振れ
- ✓ **ライフ・産業事業(△10億円)**  
欧米マクロ環境の影響による売上高未達により、計画下振れ
- ✓ **映像事業(△27億円)**  
コスト削減を進めたが、売上高未達(コンパクト単価下落、ミラーレス台数未達)、為替マイナス影響により、計画下振れ



Copyright Olympus Corporation

9

- こちらは期初公表値に対する営業利益の増減内訳をご説明したものです。
- 計画比上振れの要因は、先ほどご説明申し上げた通り、好調な医療事業によるものです。
- ライフ・産業事業、映像事業については、売上高の未達を主要因として、不本意ながら計画比下振れという結果です。
- こうした、ライフ・産業事業、映像事業等、期初見通しに対するマイナス要因がございましたが、これらを全て吸収して、この上半期の営業利益は期初270億円の見通しを15億円上回る、285億円という結果でした。

## 貸借対照表(2013年9月末)

✓ 約1,300億円の有利子負債圧縮(3月末比)と、約1,100億円の増資等により、自己資本比率は3月末より13ポイント改善、30%レベルまで回復

(単位:億円)	2013年 3月末	2013年 9月末	増減		2013年 3月末	2013年 9月末	増減
流動資産 (デジカメ在庫)	5,410 (236)	5,366 (245)	△44 (+9)	流動負債	3,169	2,600	△568
有形固定資産	1,298	1,339	+41	固定負債 (内:社債・長期借入金)	4,915 (4,229)	4,301 (3,558)	△614 (△670)
無形固定資産	1,746	1,725	△21	純資産	1,519	2,806	+1,287
投資その他資産	1,148	1,277	+129	(自己資本比率)	(15.5%)	(28.7%)	(+13.2pt)
資産合計	9,602	9,708	+105	負債 純資産 合計	9,602	9,708	+105

有利子負債: 4,300億円(2013年3月末比 △1,304億円)  
純有利子負債: 1,969億円(2013年3月末比 △1,339億円)

Copyright Olympus Corporation

10

- バランスシートの状況です。
- 有利子負債は、2013年3月末から約1,300億円の大幅圧縮を進め、総額で約4,300億円となりました。
- 純有利子負債も2,000億円を切る水準となっています。
- 自己資本比率は、こうした有利子負債の圧縮に加え、7月に行った約1,100億円の増資等によって、2013年3月末から13ポイント改善し、2017年3月期を最終年度とする中期ビジョンの目標水準である約30%レベルにほぼ到達しています。
- なお、デジタルカメラの在庫ですが、2013年3月末から約9億円増加しました。ただし、これは主にミラーレス一眼や交換レンズの部品等による増加であり、コンパクトカメラの在庫金額については着実に減少させております。

## キャッシュフローの状況(2013年4-9月)

(単位:億円)	2013年3月期 2Q (2012年4-9月)	2014年3月期 2Q (2013年4-9月)	増減
売上高	4,058	3,338	△719
営業利益	180	285	+105
(%)	4.4	8.5	4.1pt
営業CF	65	294	+229
投資CF	373	△107	△480
財務CF	△521	△219	+302
キャッシュフロー	△84	△32	+52
フリーキャッシュフロー	437	187	△250
現金及び現金同等物期末残高	1,860	2,290	+430
減価償却費	157	169	+12
のれん償却額	54	47	△8
設備投資額	146	172	+26

- キャッシュフローの状況についてご説明します。
- 営業キャッシュフローは、営業利益285億円に加え、売上債権を約115億円圧縮したことを主要因として、前年同期から約230億円増加し、294億円のプラスを確保する事が出来ました。
- 投資キャッシュフローは、107億円のマイナスでしたが、これは主に設備投資関連の支出によるものです。
- 以上により、フリーキャッシュフローは187億円のプラスとなりました。
- また、財務キャッシュフローの219億円のマイナスには、増資資金と、有利子負債の圧縮が含まれております。

---

## **(2) 2014年3月期通期見通し**

続いて、2014年3月期の見通しについてご説明いたします。

## 2014年3月期 連結通期見通し

(単位: 億円)	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)	2014年3月期 (期初見通し)
売上高	7,439	7,200	△ 239	△ 3%	7,000
営業利益 (営業利益率)	351 (4.7%)	725 (10.1%)	374 (+5.4pt)	+107%	710
経常利益 (経常利益率)	130 (1.8%)	500 (6.9%)	370 (+5.1pt)	+283%	480
当期純利益 (当期純利益率)	80 (1.1%)	130 (1.8%)	50 (+0.7pt)	+62%	300
<b>&lt;為替レート・影響額&gt;</b>					
円/US\$	83円	98円	+15円(円安)		
円/Euro	107円	129円	+21円(円安)		
売上高への影響額	-	+852億円			
営業利益への影響額	-	+185億円			

Copyright Olympus Corporation

13

- 映像事業および、ライフ・産業事業の厳しい状況を織り込んだ一方、医療事業の好調な業績を受けて、期初見通しから売上高を200億円、営業利益を15億円、経常利益を20億円、上方修正しました。
- 一方、上半期に特別損失として訴訟損失引当金170億円を計上したことにより、当期純利益は期初見通しから修正し、130億円となる見通しです。
- なお、下半期の前提為替レートは、1ドル97円、1ユーロ127円。年間ベースでは、1ドル98円、1ユーロ129円となります。



## 2014年3月期 セグメント別業績見通し

(単位:億円)		2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (最新見通し)	前期比 増減額	前期比 (%)	2014年3月期 (期初見通し)
医療	売上	3,947	4,900	+ 953	+ 24%	4,700
	営業利益	871	1,100	+ 229	+ 26%	1,010
ライフ・産業	売上	855	1,000	+ 145	+ 17%	1,000
	営業利益	35	45	+ 10	+ 28%	70
映像	売上	1,076	1,040	△ 36	△ 3%	1,040
	営業利益	△ 231	△ 50	+ 181	-	-
その他	売上	417	260	△ 157	△ 38%	260
	営業利益	△ 49	△ 50	△ 1	-	△ 50
全社・消去	売上	-	-	-	-	-
	営業利益	△ 293	△ 320	△ 27	-	△ 320
連結合計	売上	7,439	7,200	△ 239	△ 3%	7,000
	営業利益	351	725	+ 374	+ 107%	710

Copyright Olympus Corporation

14

- セグメント別にはこちらの通りです。
- 医療事業は消化器内視鏡および外科内視鏡の新製品が、引き続き売上拡大に寄与する見込みであり、売上高、営業利益ともに大幅に成長する見通しです。
- 売上高は前年同期比 24%増の4,900億円、営業利益は同26%増の1,100億円となる見込みであり、いずれも過去最高となります。また、期初の計画から売上高で200億円、営業利益で90億円上方修正しています。
- ライフ・産業事業は、売上高は前年同期比17%増の1,000億円、営業利益は同28%増の45億円の見込みです。欧州、中国のマクロ環境の影響を織り込み、期初計画との比較では営業利益を45億円に修正しています。
- 映像事業の売上高は、1,040億円、営業利益は50億円の営業損失となる見通しです。映像事業のこの下半期の改革を着実に進め、来期以降の黒字化につなげたいと思います。

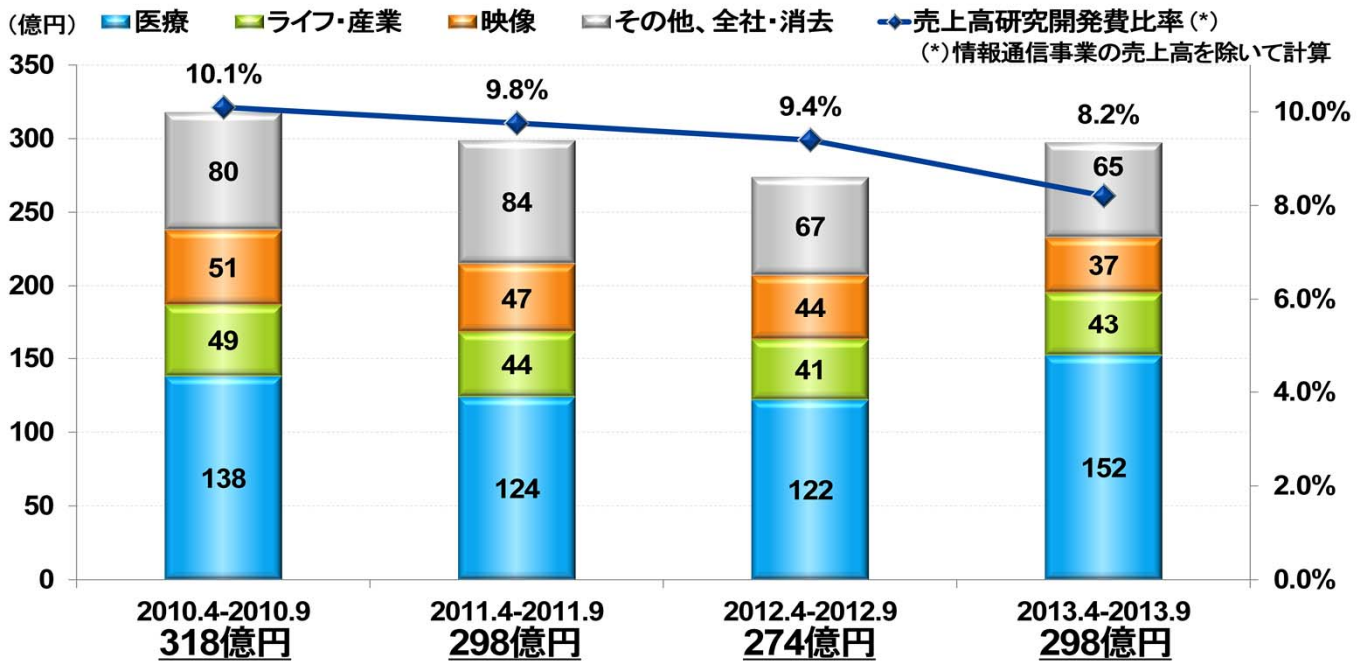
**OLYMPUS**

- 最後に、今期は主要事業の業績に加え、財務体質も徐々に改善してまいりました。まだまだ課題はございますが、来期以降、中期ビジョンの達成に向けた取り組みを更に加速し、株主の皆様への還元等も検討してまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。
- 私からは以上です。ご清聴ありがとうございました。

---

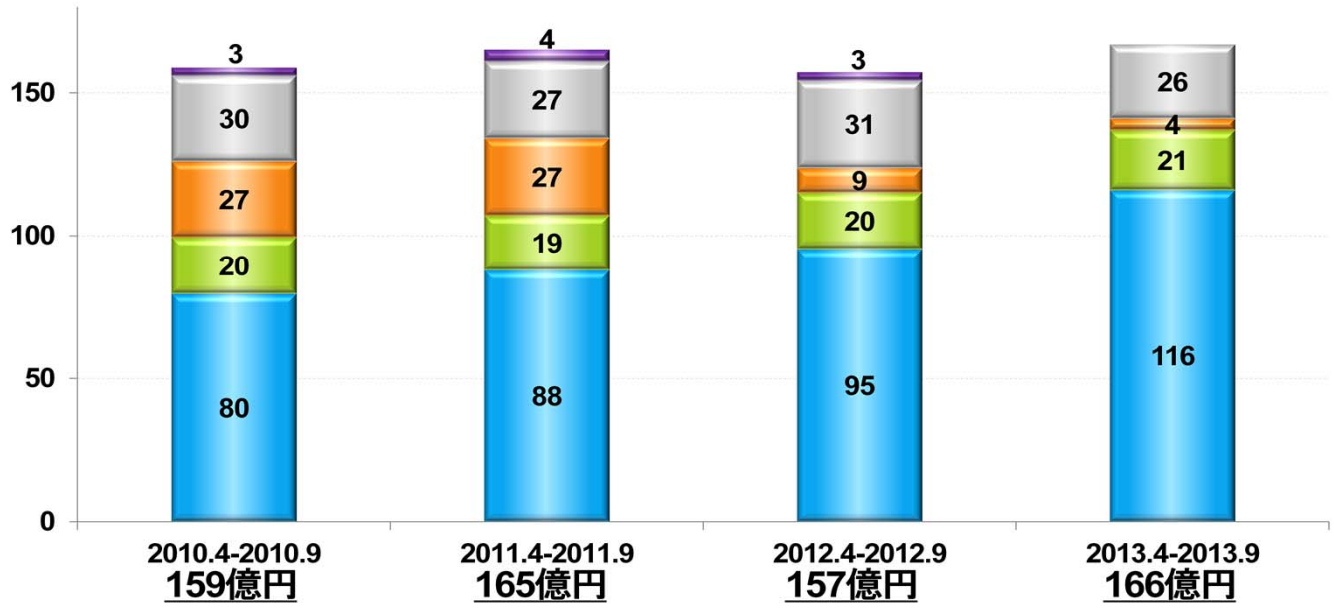
# 参考資料

## 【参考資料】 研究開発費



## 【参考資料】 減価償却費

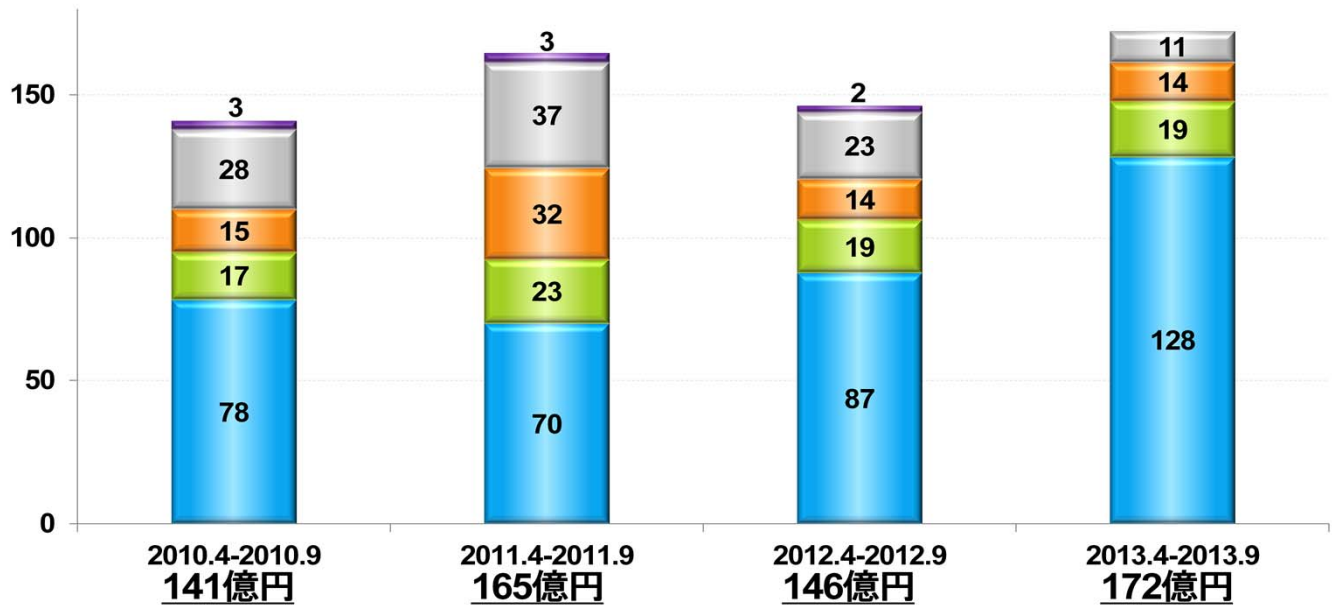
(億円) ■ 医療 ■ ライフ・産業 ■ 映像 ■ その他、全社・消去 ■ 情報通信



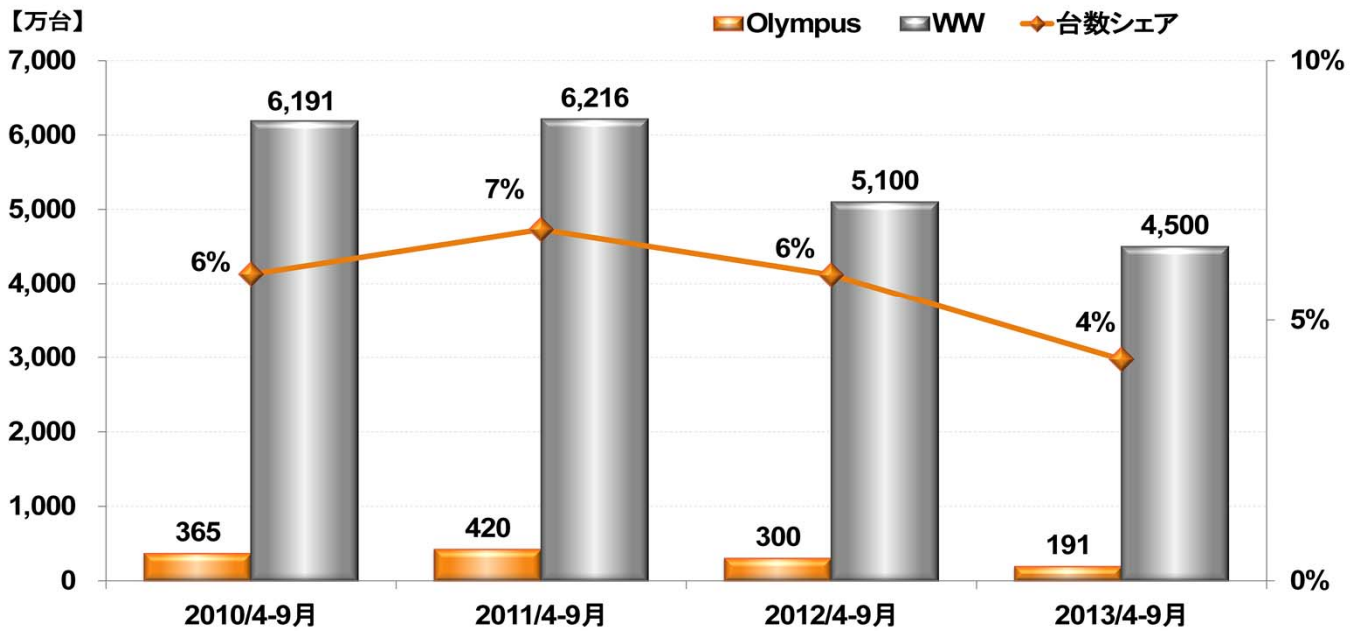


## 【参考資料】 設備投資

(億円) ■ 医療 ■ ライフ・産業 ■ 映像 ■ その他、全社・消去 ■ 情報通信

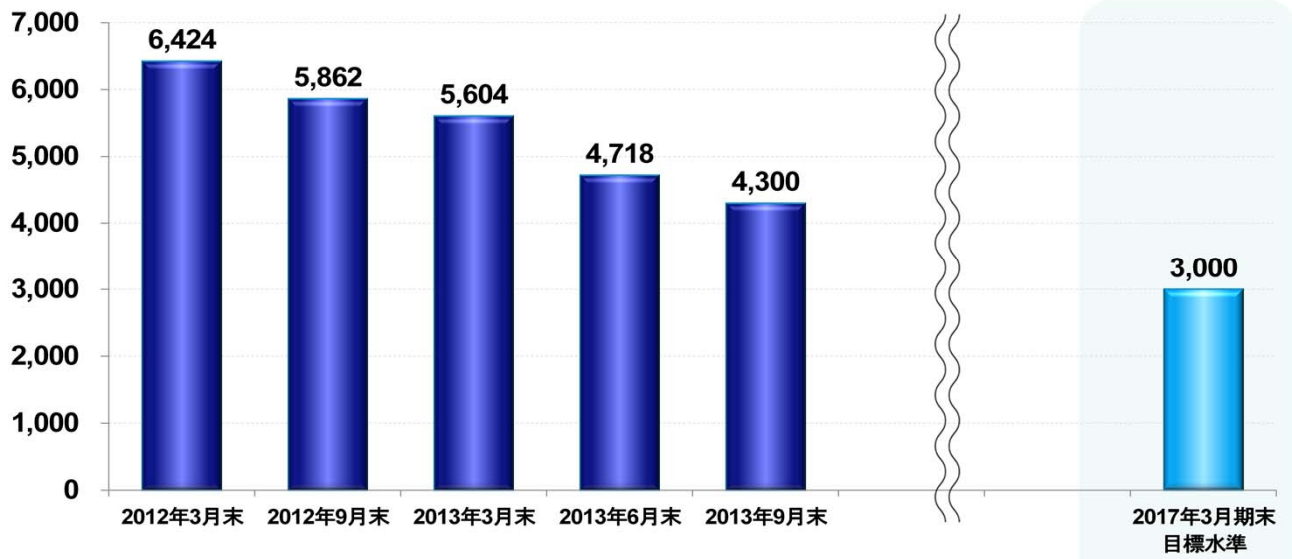


## 【参考資料】 デジタルカメラ



## 【参考資料】 有利子負債

(億円)



## 【参考資料】 自己資本比率



## 【参考資料】 中期経営計画(経営評価指標)

	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 第2四半期(実績)	2017年3月期 (目標水準)
投下資本利益率(ROIC)	2.7%	-	10%以上
営業利益率	4.7%	8.5%	10%以上
フリーキャッシュフロー (営業CF+投資CF)	587億円	-	700億円以上
自己資本比率	15.5%	28.7%	30%以上

【為替前提】 US\$ =90円 EUR=120円  
 (\* ) 2013年5月15日発表数値



## 【参考資料】 中期経営計画(連結目標数値)

	2015年3月期	2017年3月期
売上高	7,600億円	9,200億円
営業利益 (営業利益率)	930億円 12%	1,430億円 16%
経常利益 (経常利益率)	700億円 9%	1,250億円 14%
当期純利益 (当期純利益率)	450億円 6%	850億円 9%

【為替前提】 US\$ =90円 EUR=120円

(\*) 2013年5月15日発表数値

## 【参考資料】 中期経営計画(セグメント目標数値)

		2015年3月期	2017年3月期
売上高	医療	5,200億円	6,500億円
	ライフ・産業	1,150億円	1,350億円
	映像	1,000億円	1,000億円
	その他	250億円	350億円
	合計	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,110億円	1,500億円
	ライフ・産業	90億円	150億円
	映像	70億円	90億円
	その他	▲10億円	10億円
	全社・消去	▲330億円	▲320億円
	合計	930億円	1,430億円

【為替前提】 US\$ =90円 EUR=120円

(\*) 2013年5月15日発表数値

## **OLYMPUS**

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。